

ゴウワン®DLジャンボ

■種類名：オキサジクロメホン・クロメプロップ・ダイムロン・プロモブチド・ペンシルフロ
メチル粒剤

■有効成分：オキサジクロメホン-----0.86%
クロメプロップ-----4.3%
ダイムロン-----6.4%
プロモブチド-----8.6%
ペンシルフロメチル-----0.73%

■PRTR法指定物質：ドデシル硫酸ナトリウム [第1種]-----1.2%

■登録番号：第22499号
■毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
■登録初年：2009.11.04
■性状：類白色細粒、水溶性パック入り、
1パック70g
■有効年限：3年
■包装：700g×20袋

【特長】

- SU抵抗性ホタルイに有効な2成分を配合し、高い除草効果を示す。
- 1パック70gと大きく投げ込みやすい。
- 水稲に対する安全性が高いため、移植直後からの処理が可能。

【適用内容】(2014年10月末日現在)

| 作物名 | 適用雑草名 | 使用時期 | 適用 土壌 | 使用量 | 本剤の 使用回数 | 使用 方法 | 適用地帯 |
|----------|---|------------------------------------|------------|---------------------------------------|-------------|--------------------------------------|-------------------------------|
| 移植 水稲 | 水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミズガヤツリ ヒルムシロ セリ アオミドロ・藻類による 表層はく離 | 移植直後～ ノビエ2葉期 但し、 移植後30日まで | 砂壤土 ～埴土 | 小包装 (パック) 10個 (700g) /10a | 1回 | 水田に 小包装 (パック) のまま投 げ入れる。 | 近畿・中国・四国 の普通期および 早期栽培地帯 |

| 林ガジ加刈を含む 農薬の総使用回数 | 加メプロップを含む 農薬の総使用回数 | ダイムロンを含む 農薬の総使用回数 | プロモブチドを含む 農薬の総使用回数 | ペンシルフロメチルを含む 農薬の総使用回数 |
|----------------------|-----------------------|-----------------------------------|-----------------------|--------------------------|
| 2回以内 | 2回以内 | 3回以内 (育苗箱散布は1回以内、 本田では2回以内) | 2回以内 | 2回以内 |

【効果・薬害等の注意】

- 必要量を購入し、できるだけ残すことなく使いきること。
- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果に差が出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワは2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生前から再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。
- 苗の植付けが均一となるように、整地や代かきはていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合には特にていねいに行うこと。
- 処理に当たっては水の出入りを止めて水深5～6cmの湛水状態にし、散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させないようにし、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。自然減水により田面の一部が露出するようになったら、水尻はとめたままにし、通常の水深になるまで水を入れて水口を閉じること。
- 本剤は小包装(パック)のまま10アール当たり10個の割合で水田に均等に投げ入れること。
- 藻や浮草が多発している水田では、拡散が不十分となり、効果の劣る可能性があるため使用を避けること。
- 散布後に多量の雨が予想される場合は除草効果が低下することがあるので使用を避けること。
- パックに使用しているフィルムは水溶性なので、ぬれた手で作業したり、降雨で破袋することのないように注意すること。
- 下記のような条件では薬害が発生するおそれがあるので使用を避けること。
 - ◆ 砂質土壌の水田及び漏水田(減水深2cm/日以上)
 - ◆ 軟弱な苗を移植した水田
 - ◆ 極端な浅植の水田
- 処理後数日間著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められない。
- 本剤はその殺草特性からいぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- 散布田の水田水を他の作物に灌水しないこと。
- 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、落水、かけ流しはしないこと。

- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ❖ 本剤は水溶性フィルムで小包装化されているため、通常の使用方法ではその該当がない。ただし濡れた手で触らないこと。
- ❖ 水溶性フィルムが破袋した場合は以下の点に注意すること。
 - ①誤食などのないよう注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
 - ②眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
 - ③皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意すること。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすこと。
 - ④かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意すること。
- ❖ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。吸湿性があるので湿気には十分注意し、使い残りは外袋の口を堅く閉じて保管すること。また、強く加圧されると包装材フィルムが劣化するおそれがあるので下積みにならないようにすること。